

観光フォーラム

和歌山大学におけるリカレント教育の現状と課題 ～南紀熊野観光塾を事例に～

Current status and issues of recurrent education at Wakayama University ～ A case study of Nanki Kumano Tourism Seminar ～

古久保 綾子¹、出口 竜也²

Ayako Furukubo, Tatsuya Deguchi

1 和歌山大学南紀熊野サテライト地域連携コーディネーター

2 和歌山大学観光学部教授

キーワード：リカレント教育、観光塾、観光人材、地域振興

Key Words：Recurrent education, Tourism seminar, Tourism personnel, Regional promotion

I. はじめに

本論文は、和歌山大学におけるリカレント教育の現状と課題について「南紀熊野観光塾」を事例に検討することを主な目的としたものである。南紀熊野観光塾（以下、観光塾）は、観光を手段とした地域振興を担う人材を育成することを目的に2013（平成25）年度から南紀熊野サテライト主催、観光学部共催で実施しているリカレント講座である。受講者は主に紀南地域の社会人と観光を学ぶ学生を対象としており、2020（令和2）年度までに8期・13回の講習を実施し、卒塾生を輩出している。会場は、本学のメインキャンパスが所在する和歌山市から南に約100km離れた田辺市の文化複合施設である和歌山県立情報交流センタービッグ・ユーを中心に、白浜町、那智勝浦町、古座川町などの宿泊施設を使用している。

これまでに開講された観光塾における一連のテーマ・内容は、受講者の課題認識や社会情勢に対応して変化させている。当初は「ガイド養成」が主たるテーマに設定されていたが、次第に地域経営やDMO（Destination Management/Marketing Organization）などをキーワードとした「観光創生、地域経営」のための人材育成プログラムへと主たるテーマをシフトさせている。また、観光業に従事する方々が参加しやすいよう、平日開講とし、受講生が講師と濃密な意見交換を行う機会を確保するとともに、多忙な講師の度重なる来訪による負担を軽減するために、当初採用していた複数回に渡る単発の講演会形式から、1泊2日の合宿形式へと変更している。さらに、どのような状況になったとしても開講を模索することをモットーに、受講申し込み者が定員を大幅に超過した年度には大人数を収容できる会場を変更して全員を受け入れ、2020（令和2）年度のいわゆるコロナ禍においてはプログラムを大

幅に簡素化し、対面とオンラインのハイブリッド方式を採用するなど、さまざまな改善にも取り組んできている。おそらく、日本の大学において観光をテーマとしたリカレント講座がここまで長く続いた例は稀有であろう。以下、このような特徴を持った観光塾の設立の経緯と背景、プログラムの変遷、コロナ禍での対応、運営の現状と課題について順に述べていきたい。

II. 観光塾開設の経緯と背景

1. 開設の経緯と背景

執筆者の一人である古久保が観光塾の開講を構想した最大の契機は、2011（平成23）年3月に起こった東日本大震災、および同年9月に起こったいわゆる紀伊半島大水害にある。こうした多くの尊い命を奪った災害から、地域を復興させるためには域外からの協力や支援が不可欠であり、その有力な手段として観光が活用できることに関心が集まっていた。また、当時の南紀熊野サテライトは、大学の災害対策分室として位置付けられており、世相を反映した人材育成プログラムの開設が期待されていた。災害や復興をテーマとしたものや、和歌山県が推進しようとしていたジオツーリズムのための人材養成が期待されていたことも観光塾の開設を後押しした。当時は「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年、JRによるディスティネーションキャンペーン、国民体育大会、南紀熊野ジオパークの国内登録、高野山開創1200年など、和歌山県がゴールデンイヤーを謳い観光振興に力を入れていた時期でもあった。

ただ、南紀熊野地域では、ディスティネーションキャンペーン後のありように不安の声も上がっていた。当時の古久保による聞き取り調査によれば、熊野古道では有償無償の語り部や

フィールドガイド、認定資格等が乱立しており、そこにジオガイド養成の話も舞い込むことで、混乱の様相を呈していた。また、圏域を超えて活動できる大学に地域の人材育成や各種資格の整理、ガイドのスキルアップのための講座等を開講してほしいとの要望や期待の声もあった。こうした要望や期待に応えるべく、古久保は2013（平成25）年5月富山県上市町雇用創造協議会が実施したエコツアーガイド養成講習会を視察した。参加者は、南アルプスの自然ガイドやサイクリング事業者をはじめ、地域で求職中の方もあり、自治体による就業訓練のための講座として位置付くものであることがわかった。こうした就業訓練のカリキュラムとして観光振興のための人材育成プログラムを取り入れている富山県の取り組みは、観光分野におけるリカレント教育や就業支援に自治体や公的な組織がどう関わるとよいかを考える上で大いに参考となった。

こうした取り組みを南紀熊野地域に当てはめて考えてみると、フィールドガイドに必要なインタープリテーション、顧客満足度を向上させるために重要な観点、安全管理、法令順守に関する講習が新たに必要であることが見えてきた。また、観光の分野において自主自立の精神で持続可能な取り組みを行える人材育成のプログラムを構築するためには、既存の知識を詰め込み、それを披露するだけの従来型のガイドではなく、ガイド自らが顧客から得た情報をもとに次のプログラムを企画立案することで自らの生業を確かなものにする視点と能力が重要であることに気付くことができた。これは、後に観光塾を構成する上で最も重要な気付きであった。実際に、当時の南紀熊野地域はガイドの高齢化が進んでおり、定年退職後に社会参加の一環として悠々自適の経済状態でボランティアガイドをしているケースが多く、有料ガイドや若手インストラクターのようなガイドを生業にできる人材の参入がまだまだ少ない状況にあった。こうした状況を変えていくためにもガイドが経営の視点を持ち、プロフェッショナルとしての専門知識を学ぶ観光塾の開設が重要と考え、関係各所との調整の末、2013（平成25）年10月設置に至った。講座の名称を「南紀熊野観光塾」とし、主な参加対象を南紀熊野地域で観光事業に取り組む現役世代とし、受講生が参加しやすいよう地域内に会場を設置することとした。観光塾開設にあたっては、地元の観光事業者である一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローの多田稔子会長にご助言を頂くとともに、観光学部との共催の体制をとり、和歌山県の講演を仰いだ。現在は、上記に加えて株式会社南紀白浜エアポート、一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローにも共催、後援の労をいただいている。

2. 従来の開講プログラムとは別立てで観光塾を新設した理由

南紀熊野観光塾を主催している南紀熊野サテライトは、いわゆる高等教育機関が存在しない紀伊半島南部において、知の拠点を構築することを標榜して設置された機関であり、

2020（令和2）年に15周年を迎えた。和歌山県および周辺市町村等が連携した協議会から運営支援を受ける形で社会人を対象とした教育機会の提供、教育研究を目的とした現地調査の支援、本学のエデュケーションの成果を地域還元するなどの活動を行っている地域の拠点である。さまざまな活動を行うにあたっては、地元住民や連携組織のニーズを逐次聞き取り、それを運営に反映させている。開講科目は、大学院の経済学研究科の授業科目と教養科目（現在は連携展開科目の学部開放科目）の2コースを前期と後期に分け、年間12～14科目程度を用意しており、この中には民間企業や自治体からの寄付講義も2科目含まれている。また、求めに応じて独自の公開講座やサイエンスカフェも随時開講している。観光塾の開講にあたっては、従来提供している上記の授業科目のいずれかに位置付けることも検討されたが、当地の事情に合った実施形態を模索しながら、内容を逐次変更していくことが想定されたことや、多忙な講師を全国各地から委嘱することから、開催日時や内容に柔軟な調整が容易であり、制約の少ないフォーラム形式で実施することとした。すでに述べたとおり、観光塾の開講形態については、当初の観光塾は講演会形式で数回に分けて開講する方式を採用していたが、のちに合宿形式で集中的に開講する方式に変更している。また、参加する講師は原則としてすべてのセッションに参加するか聴講することを要請している。この方式は、講師も学べる観光塾であると望外の好評を博している。

毎回のカリキュラムの設定において念頭に置いたのは、従来型の一方通行で知識を教授する座学フォーラムではなく、ディスカッションを多用した双方向型のフォーラムである。インプットとアウトプットを繰り返すことで、より理解が深まるだけでなく、自らの意見を披露する場を用意することで自主自立の精神を涵養することもめざしたものである。

これは、従来型の座学だけでは世相とともに変化する観光を肌感覚でとらえることが難しく、先進とされている事例を参考にするだけでは劣化版のコピー事業を後追いで行うことになりかねないと判断したからである。したがって、講師の選定における目利きが最も重要であると判断し、塾長として「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広める」観光カリスマである山田桂一郎氏を招へいし、塾全体の統括をお願いしている。山田氏の観光を「本質」からとらえ、それを地域振興のための体制づくりに落とし込む際の専門的知識の幅広さと奥深さ、そして人材育成におけるスキルの高さは前評判以上であり、観光塾自体のリピーター確保にも大いに貢献してくれている。大学開催のフォーラムやセミナーで毎回定員を大幅に超える申し込みをいただいているのも塾長が山田氏であることと、彼の目利きによって招へいされる講師の面々が魅力的だからであると言っても決して過言ではない。

とは言え、地域の実情に合った情報の編集や戦略の立案ができる人材育成をさまざまな業種の受講生を相手にして双方

向で実施することは、個々人の関心事項や学習段階の相違から容易なことではない。この点については、入塾時に入念な事前聞き取りを行い、個々の受講生と講師陣との対話の際にできるだけその内容を具体的に話してもらうように促すことで対応している。また、受講生の満足度の向上や修了後の学習意欲の維持、リピート受講を促すための対策としては、基礎講習において固定概念の払拭をはかるプログラムを準備するとともに、習熟度に応じた理解が可能のように、対話を折りまぜた内容としている。

この双方向方式の採用は、実は従来から南紀熊野サテライトがめざしてきた知識の提供のあり方に通じるものである。南紀熊野サテライトは、設置当初から現地現場で学ぶことを重点としていたため座学の提供だけではなく地の利がもたらすフィールドを活用した現地調査や野外演習を取り入れてきた。また、グループワークやその後の発表の機会を設けることで参加者同士が学びを共有し深める機会としてきた。加えて、観光塾は単位認定が必要な授業科目ではないことから、プログラムの運営に際して講師が受講者の理解度を測りながら柔軟に内容を変更することが可能であり、南紀熊野サテライトがめざす学びの姿により近いものを実現できていると言ってよい。

なお、2013（平成 25）年度から 2020（令和 2）年度までの 8 期・13 回にわたるプログラムの概要は、表 9 のとおりである。



写真 1、2 ローカルカフェの様子（フリップボードを使った意見交換）



写真 3、4 ローカルカフェの様子（フリップボードを使った大喜利形式の意見交換）

3. 受講者層の変化

観光塾が開設された 2013（平成 25）年は、協議会や自治体、住民等からのアンケート調査からこれまでのような教養科目の提供にとどまらず、地域振興などの実践に資する学びや、その有力な手段としての観光を学べる専門的な科目へのニーズが高まっていることがうかがえる時期でもあった。当時集計した自治体職員を対象としたアンケート結果のグラフでも地域振興に関心が高いことがわかる。（表 1 参照）

サテライト設置 5 年目にあたる 2010（平成 22）年度に授業受講生を対象に実施したアンケート調査によると、受講者層の上位の職種は無職、公務員、その他で、平均年齢は 60 代のシニア世代であった（表 2・表 3 参照）が、観光塾の受講者の学習層の上位の職種は自治体職員、地方議員、会社員、宿泊事業者、観光事業者（基礎講習は自治体職員が最上位、塾生講習は個人事業主が最上位）であり平均年齢が 40 代で推移している（表 4・表 5 参照）ことから、地域の現役世代が必要とする実践的な教育プログラムの提供を実現することができていると判断している。

表 1 2010（平成 22）年度ニーズ調査アンケート（自治体職員対象）集計結果（どのような科目があれば受講したいか）

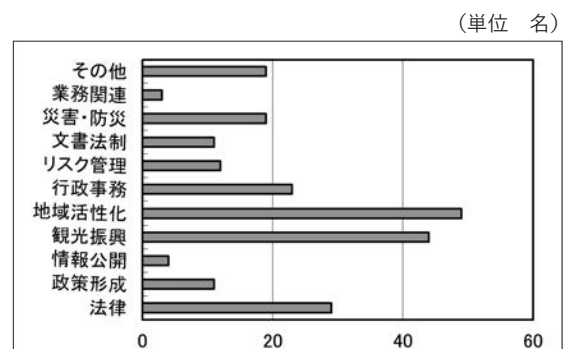


表 2 2010（平成 22）年度 サテライト授業受講生の年齢分布

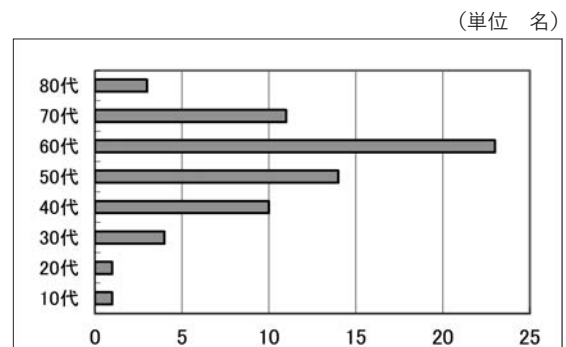


表 3 2010（平成 22）年度 サテライト授業受講生の職業分布

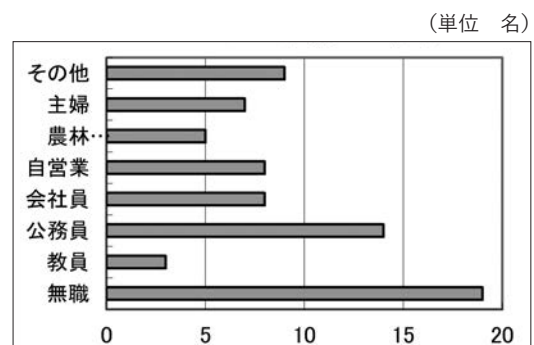
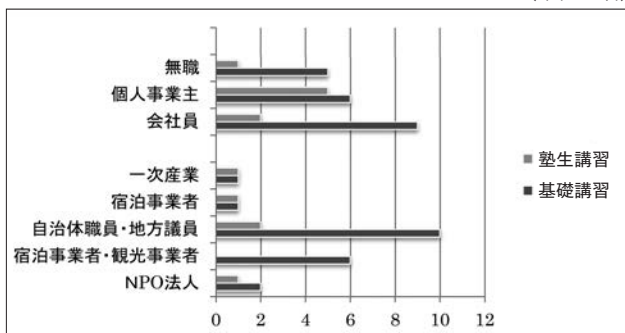


表4 第1期～第8期 塾生の年齢分布と各期の平均年齢、最年少・最年長者の年齢
(単位 名)

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----------------|
| 第1期 | 0 | 5 | 11 | 9 | 5 | 2 | 1 | 0 | 平均年齢 | 41.5歳(22歳～75歳) |
| 第2期 | 0 | 8 | 6 | 11 | 10 | 4 | 2 | 1 | 平均年齢 | 46.2歳(21歳～82歳) |
| 第3期 | 1 | 3 | 3 | 5 | 3 | 0 | 0 | 1 | 平均年齢 | 42.3歳(17歳～81歳) |
| 第4期基礎 | 0 | 1 | 2 | 8 | 1 | 0 | 1 | 1 | 平均年齢 | 46.5歳(27歳～80歳) |
| 第4期塾生 | 0 | 4 | 4 | 10 | 2 | 2 | 1 | 2 | 平均年齢 | 45.3歳(20歳～81歳) |
| 第5期基礎 | 0 | 6 | 5 | 9 | 3 | 3 | 1 | 0 | 平均年齢 | 41.3歳(21歳～73歳) |
| 第5期塾生 | 0 | 7 | 6 | 11 | 2 | 1 | 0 | 0 | 平均年齢 | 39.2歳(20歳～65歳) |
| 第6期基礎 | 0 | 3 | 12 | 16 | 6 | 3 | 1 | 0 | 平均年齢 | 43.1歳(25歳～70歳) |
| 第6期塾生 | 0 | 4 | 6 | 14 | 5 | 0 | 0 | 0 | 平均年齢 | 41.6歳(23歳～56歳) |
| 第7期基礎 | 2 | 6 | 6 | 10 | 4 | 0 | 2 | 0 | 平均年齢 | 39.7歳(23歳～56歳) |
| 第7期塾生 | 2 | 4 | 1 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 平均年齢 | 37.2歳(23歳～56歳) |
| 第8期基礎 | 0 | 6 | 7 | 12 | 5 | 4 | 2 | 1 | 平均年齢 | 47.1歳(20歳～85歳) |
| 第8期塾生 | 0 | 2 | 2 | 7 | 3 | 0 | 0 | 0 | 平均年齢 | 43.2歳(20歳～55歳) |
| 合計 | 5 | 59 | 71 | 127 | 52 | 19 | 11 | 6 | | |

表5 2020(令和2)年度 第8期塾生の職業分布
(単位 名)



4. 設置当初の講師選定

観光塾の正式名称と第1期の講師選定、カリキュラムの骨格は、2012(平成24)年度の後期に南紀熊野サテライトで開講された学部開放科目「エコツーリズム論」(10月～11月実施)と大学院科目「着地型観光と地域振興」(1月～2月実施)を担当した出口と竹林浩志教員とゲスト講師による授業構成と、授業直後の意見交換が基礎となっている。なお、この授業のゲスト講師には、のちに塾長となる山田桂一郎氏も含まれている。

受講対象者の設定にあたっては、観光事業者や自治体の観光商工担当者からの参加を多く募りたかったこともあり、前述の一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローの多田稔子会長には多大なるご尽力をいただいた。受講者は、地域の有識者からの紹介などの方法も採用したため、サテライトでの科目履修生にとどまらず、現場で中核となる現役世代がリカレント教育の一環として参加しており、現在に至っている。サテライトの科目履修生と観光塾の受講生の重複受講は想定よりも遥かに少なく、これは参加者の受講目的の差異によるものと考えられる。

Ⅲ. 観光塾の実施概要と招へい講師の変化

観光塾開設当初めざした「ガイド養成」から「観光創生、持続可能な地域経営」へと次第に内容を転換した経緯

は、地域における観光関連事業者の関心が経時的に転換していったことに呼応している。先にも述べた通り、既存のサテライト科目が社会人を主たる対象としていることから土曜日や日曜日に設定されているのに対し、観光塾は参加者属性が観光関連事業者であるため、繁忙期ではない平日開催とした。ただし、平日に業務に従事している小売店の経営者や商工事業者等は、研修の位置付けでないと参加しづらいという現状もあった。その対応策として、18時以降に基調講演等を開催し、無料で一般開放するなどして広く聴講できる機会を確保した。その結果、意欲ある方の、次年度の観光塾への参加につながる事例も数件発生した。

また、第3期までは単一のプログラムを実施していたが、リピーター受講生のさらなるレベルアップをはかるため、第4期からは従来のプログラムを基礎講習とし、新たに上級コースとしての塾生講習を開設することとした。これ以降、次第にリピーター受講生と一緒に活動している仲間を紹介してくれたり、所属組織での新任研修の目的で基礎講習を推挙してくれるようになるなど、受講者が基礎講習の集客を後押ししてくれるようになった。口コミの輪が大きくなるにつれて基礎講習は受講者を集めることも容易になり、定員を大幅に超えた受講申し込みにどう対処するかに常に苦慮するうれしい悲鳴状態になっている。

また、「夜なべ談義」や「活動報告会」、「プロフィールシートの貼り出し」、「頻繁な席替え」等を実施することで参加者同士が交流するきっかけをいくつも用意していることから、期を重ねるごとに参加者間のネットワークも強化・拡大し、観光塾修了後の各自の取り組みにもプラスに寄与しているようである。



写真5、6 入塾時に活動内容を記載したシートを共有発表する塾生の様子

表6 第1期～第8期 塾生の住所（活動地域を含む）

（単位 名）

| | 田辺市 | 新宮市 | みなべ町 | 白浜町 | 上富田町 | すさみ町 | 那智勝浦町 | 太地町 | 古座川町 | 北山村 | 串本町 | その他 |
|-------|-----|-----|------|-----|------|------|-------|-----|------|-----|-----|-----|
| 第1期 | 14 | 0 | 0 | 3 | 4 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 5 |
| 第2期 | 15 | 1 | 0 | 3 | 4 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 10 |
| 第3期 | 4 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| 第4期基礎 | 0 | 0 | 0 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 第4期塾生 | 3 | 0 | 0 | 8 | 4 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 6 |
| 第5期基礎 | 8 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 16 |
| 第5期塾生 | 5 | 1 | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 2 | 1 | 9 |
| 第7期基礎 | 4 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 10 |
| 第7期塾生 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| 第8期基礎 | 11 | 0 | 3 | 8 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 9 |
| 第8期塾生 | 3 | 0 | 3 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| 合計 | 69 | 2 | 9 | 37 | 31 | 11 | 1 | 0 | 15 | 4 | 9 | 80 |

その他 23% の具体的な地域名（県外参加者）

福井県（鯖江市、福井市）、奈良県（奈良市、香芝市、吉野郡）、京都府（宇治市、長岡京市）、兵庫県（美方郡香美町、豊岡市、養父市、西宮市）、滋賀県（甲賀市、大津市）、北海道（札幌市、網走郡）、宮城県（気仙沼市）、大阪府（高槻市、大阪市、泉南郡）、岐阜県（下呂市）、三重県（熊野市、南牟婁郡御浜町）、福岡県（福岡市、佐賀県嬉野市、由布市）、徳島県（徳島市）

受講生の事情や要望に配慮した構成と運営は、観光塾自体のPDCAサイクルを円滑に回す上でも重要であると言える。

会場の選定に関しても、受講者の事情を重視するという点から、毎年度西牟婁地域と東牟婁地域で各1回ずつ開講している。これは、每期一定の比率で含まれている観光商工や企画を担当する自治体職員の受講生にとって、自治体区域を超えた移動が難しいことに配慮したものである。

また、観光塾の特徴として、2013年度の開塾当初からオンラインによる遠隔講義の手法を取り入れていたことが指摘できる。これにより、離島（小笠原諸島）やへき地（知床）等に居住しており、招へいが困難な講師にも登壇の機会を設けることができた。具体的な手法としては、Google ハングアウト機能を利用して講師と観光塾の会場をつなぎ、生配信で講義を実施していただいた。コロナ禍で一気に普及した大容量のネット回線と zoom を活用した円滑かつクリアな画像と音声は当時まだ望むべくもなく、十分とは言えないネット環境の下で、配信が安定しない事態がしばしば発生することが想定された。そのため、機材接続テストを入念に実施し、オンラインで登壇予定の講師に録画した講義素材を事前にSDカードやUSB等の媒体で郵送していただくなど、不測の事態への十全な備えを行った。また、オンライン講義後に受講生が講師に質問できるよう、会場ではタブレット端末等を用いて質疑を行い、そのやり取りを会場で共有できるような設定も行った。その際、スピーカーにつながっているメインPCのミュート機能のオンオフをこまめに行うことで、ハウリングを最小限に抑えることにつとめた。ちなみに、こうした手間ひまをかけたことで観光塾の運営におけるオンライン配信のノウハウは飛躍的に高まり、そのノウハウは2020（令和2）年度のハイブリッド形式での開講の際、大いに役立っている。



写真7、8 2020（令和2）年9月に開催されたオンラインによる情報交換会の様子

IV. コロナ禍における第8期の実施概要（対面とオンライン併用）

さまざまな紆余曲折を経ながらも、第7期の基礎講習までは順調な運営を続けることができた観光塾は、2020（令和2）年1月に突如として全世界を襲った新型コロナウイルスの感染拡大でさらなる運営方針の転換を迫られることとなった。2020年（令和2）2月13日に日本初の院内感染が和歌山県湯浅町の済生会有田病院で発生、未知のウィルスの脅威にさらされた状況で2月27日（木）～28日（金）に予定されていた第7期の塾生講習を実施するのは適切ではないと判断し、延期とした。

コロナ禍が収束しない状況下、どのような形で第8期を募集すべきか。最初の緊急事態宣言が解除された6月ごろから少しずつ準備を進め、2020（令和2）年度については合宿形式での開講は断念し、基礎演習を1日に集約すること、対

る2020（令和2）年11月26日（木）～27日（金）とし、会場は、和歌山県立情報交流センタービッグ・ユーの研修室を利用し、こちらでも万全の感染対策を講じることとした。テーマは敢えて当時さまざまな観光系のセミナーで使用された「ウィズコロナ」をキーワードとせず「地域ならではの商品づくりとは」に設定した。なぜなら、この観光塾はどのような状況にあったとしても、めざすべきものの本質は同じであると考えからである。なお、第8期のリーフレットは写真9～12のとおりである。

第8期を開催するにあたっての感染対策は以下のとおりである。まず、基礎講習では通常300人収容可能な多目的ホールを40名の受講生と約10名の講師・スタッフで使用した。席の間隔を2メートル離し、受講生の当日の席は指定とした。苦慮したのは、開始時の事前受付での混雑である。通常は、受付に際して名簿の確認、資料の手渡し、説明等を行っていたが、感染防止対策のために、事前に郵送で配席図と席



番を周知し、席にも名札と資料を事前に置くことで受付時間の短縮を図るとともに、受付時の検温と手指消毒についても混雑を回避するために会場の外で実施した。また、事前申し込みに限定し、受講者名簿と配席を管理することで、万一感染者が発生した際も濃厚接触者の確認がスムーズにできるように配慮した。昼食の際も、施設内のレストランを一齐に利用することによる混雑を避けるため、観光塾で弁当とお茶を手配し、あわせてレジャーシートも配布することで屋外での飲食を奨励した。昼食時には会場の空気を入れ換えるとともに、アルコールによる備品等の拭き掃除を実施した。換気と消毒を徹底するために、講師にもレジャーシートを配布し、屋外での昼食をうながした。

質疑も通常は使い回すハンドマイクを、講師に1人1本用意し、対面での受講生からの質問を受ける際はラインチャットの機能を利用して質問を募り、ラインを使ってない受講生には挙手してもらい、司会進行者が聞き取りに行き、その内容をマ

イクで代弁する方法を採用した。

また、会場での対面参加は、和歌山県内在住の近隣の方に限り、県外からの申し込み者にはオンラインによる参加を依頼した。

オンライン受講生の募集と運営は、和歌山大学と包括連携協定を結んでいる株式会社南紀白浜エアポートとの連携により実施した。その際、募集サイトとしてpeatix、配信はzoomを利用した。オンライン開講が実現したことにより、県外からの受講者が集まるとともに、見逃し配信も設定したために当日仕事等で参加が難しい県内外の方々からの申し込みも複数あったようである。配信の際は、連携先よりzoomの運用やイベントに詳しい技術者を紹介してもらったことでスムーズなオンライン講座が実現した。このことから、費用が許す状況であれば専門の事業者積極的に外部委託するのも有効であることが再確認できた。

南紀熊野観光塾 第8期 塾生講習

地域ならではの商品のつくり方とは

第8期生 募集 (塾生講習) 8組 20名

11/26 木曜日 11/27 金曜日

11月26日(木) 10:00~18:00
11月27日(金) 10:00~17:00

和歌山県立情報交流センターB館
〒640-0191 和歌山県和歌山市東山1-1-1

TEL: 0739-23-3977 FAX: 0739-23-3978
メール: nanki-kumano@wakayama-u.ac.jp

受付時間: 10:00~17:00 (日・月・金曜日を除く)
予約: 07-071 和歌山県立情報交流センターB館313号
和歌山県立情報交流センターB館・102号室

和歌山大学南紀熊野サテライト
TEL: 0739-23-3977 FAX: 0739-23-3978
メール: nanki-kumano@wakayama-u.ac.jp

受付時間: 10:00~17:00 (日・月・金曜日を除く)
予約: 07-071 和歌山県立情報交流センターB館313号
和歌山県立情報交流センターB館・102号室

写真 11 第8期 塾生講習リーフレット（表面）

南紀熊野観光塾 第8期 塾生講習

「地域ならではの商品づくりとは」

11/26 木曜日 11/27 金曜日

11月26日(木) 10:00~18:00
11月27日(金) 10:00~17:00

和歌山県立情報交流センターB館
〒640-0191 和歌山県和歌山市東山1-1-1

TEL: 0739-23-3977 FAX: 0739-23-3978
メール: nanki-kumano@wakayama-u.ac.jp

受付時間: 10:00~17:00 (日・月・金曜日を除く)
予約: 07-071 和歌山県立情報交流センターB館313号
和歌山県立情報交流センターB館・102号室

和歌山大学南紀熊野サテライト
TEL: 0739-23-3977 FAX: 0739-23-3978
メール: nanki-kumano@wakayama-u.ac.jp

受付時間: 10:00~17:00 (日・月・金曜日を除く)
予約: 07-071 和歌山県立情報交流センターB館313号
和歌山県立情報交流センターB館・102号室

写真 12 第8期 塾生講習リーフレット（裏面）



写真 13、14 レジャーシートを配布して屋外での昼食、トイレ等の利用の分散を促すための館内パンフレットも作成

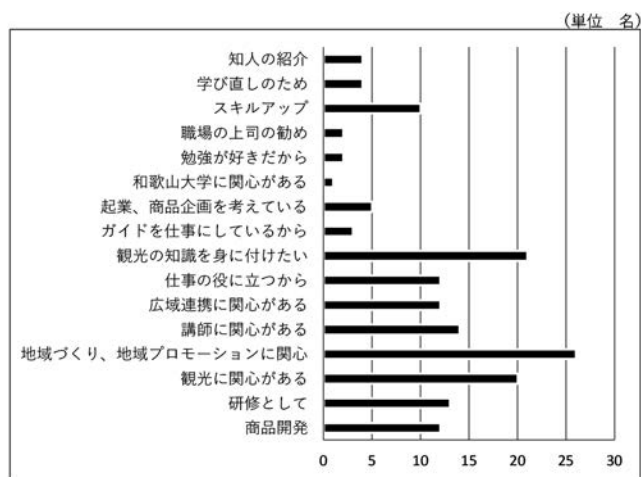


写真 15、16 第8期の会場の様子（密を回避するために全席指定で間隔を開けて配席）



写真 17、18 第7期の会場の様子

表 7 第 8 期 基礎講習の受講動機



第 8 期 基礎講習の受講動機（自由記述欄を抜粋）

- ・自ら観光を勉強しプロジェクトを考えていく為に入塾を希望。（みなべ町、会社員）
- ・地域でのツーリズム事業の立ち上げに役立てるため。（三重県御浜町、地方公務員）
- ・以前からインバウンド観光に興味がありコロナの影響が出た前に地域の企業と、英語圏でのインバウンド、考え方とやり方を勉強してきましたが、日本国内の考え方と宣伝の仕方の勉強はまだ足りていません。その違

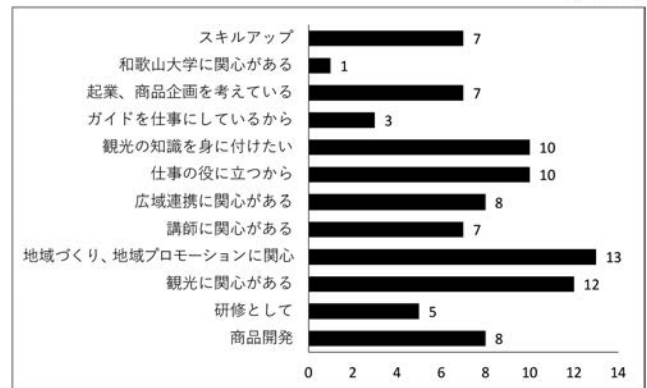
いを知りたいし、就職に役に立つ情報を勉強したい。（上富田町、無職）

- ・良い素材が活かされていないし、周囲と友好関係をよくし互いに繁栄できたら良いと思うから。（北山村、パート）
- ・北山村でも観光振興計画に着手したいと考えていますが、進め方・専門性がかかなり問われているところからどのように進めるべきかわかりません。地域全体の巻き込みかたも含めて基礎講習を通してヒントをもらいたいと思っています。観光振興に関して学び直しの重要性を痛感しています…。（北山村、地方公務員）
- ・コロナウイルス感染症が拡大し、昨年までとは状況が一変した中で、今後に向けた観光と地域振興、地域活性化について、新たな知識を身につけたいと思っています。（白浜町、地方公務員）
- ・職場では主にインバウンドをターゲットとして業務を行ってきたが、今日では日本人をターゲットとする商品づくりや工夫が求められているので、経験と知識が豊富な先生方のお話を聞かせて頂いたり、他の参加者と情報交換することで、新たな発見や気づきを得て、今後の地域貢献に活かしたい。（田辺市、旅行業）
- ・地域の観光産業について学び業務に生かしたい。コロナ禍→アフターコロナの観光産業の在り方を学びたい。（田辺市、会社員）
- ・観光が主産業である和歌山ですが、今後高齢化、後継者不足等の不安要素を抱えています。またコロナ収束後には観光形態が大きく変わる可能性があると思います。観光業に携わっている自分に今できることは何か、他地域の例で活かせることはないか等を皆さんと一緒に意見交換しながら学習し、地域活性化や観光産業を盛り上げるためのヒントを得られたいと思い応募しました。（田辺市、会社員）
- ・情報以外に裏打ちされたアカデミックな点から観光をとらえて、どのように実際の地域というコミュニティの中にあるケースにあてはめたり落とし

- 込んで目的達成していけるような基礎を学びたい。(白浜町、会社員)
- 地域の資源である熊野古道の魅力を伝える知識や方法を学ぶため。農園で作っている野菜をいかに魅力的、効率よく販売していけるか。(上富田町、会社員)
- 30年度の6期基礎・塾生講習を受講しました。当時は美浜町の地方創生事業のNPOの理事として参加し、並行して個人事業で進めていたゲストハウス事業にアドバイスを頂き大変参考になり励みになりました。開業から1年半経ち、これまでの経験と実績を踏まえてコロナ禍の今、改めて良い学習の機会になればと思い参加を希望。(日高郡美浜町、自営業)
- 選ばれ続ける地域について、求められるニーズにこたえられるスキルを学ぶ。(白浜町、町議会議員)
- 過去2回参加させていただいたが、コロナ禍において観光産業はどのように変わっていくのか、また有識者たちはコロナ社会をどのような視点で見ているのか学びたい。(田辺市、市議会議員)
- 持続可能な地域づくり、地域振興について学び、政策提案に活かしたい。(田辺市、市議会議員)
- 教育旅行の受入れを行っており、それ以外での観光での地域振興について学びたい。(白浜町、会社員)
- 地域振興事業の収益性を高め、持続させる方法を考えたい。(白浜町、会社員)
- 研修として、地域づくり地域プロモーションに関心がある。(白浜町、会社代表)
- 観光の知識を身につけたい。地域商品を企画する。(白浜町、会社役員)
- コロナ後の観光業について学びたい。(田辺市、自営業)
- 紀伊半島をネットワーク化し、広域連携に繋ぎ、交通計画上、空、陸、海とモビリティマネジメントとしてリンクさせたい。(田辺市、一級建築士)
- 地域の衰退で過疎化が進行する地域をどのようにして観光で地域経済を活性化させたら良いか学びたい。(上富田町、記載なし)
- ウィズコロナの観光全般の情報を得たいため。(田辺市、ガイドライター)
- 講師に関心があったから。(田辺市、会社員)

表 8 第 8 期 塾生講習の受講動機

(単位: 名)



第 8 期 塾生講習の受講動機 (自由記述欄を抜粋)

- ・持続可能で魅力的な観光地づくり、地域づくりのため様々な知識を得たい。他の参加者との意見交換や事例発表を通じて、あらためて観光の本質を考えていきたい。(田辺市男性、会社員)
- ・職場の環境が変化したため。(古座川町女性、宿泊業)
- ・ウィズコロナの観光全般の情報を得たいため。(田辺市女性、ガイド・ライター)
- ・自ら観光を勉強しプロジェクトを考えていくために入塾を希望。(みなべ町男性、会社員)
- ・ジオパークや美しい日本遺産、日本農業遺産などの地域振興パッケージを、住民も町も上手く使いこなせていないと思い、その解決方法を見つけて実践していきたい。そのヒントを学びたい。(香美町女性、コンサルタント、観光ガイド)
- ・地元の佐賀県嬉野市は、自然環境の素晴らしさ、観光資源の素材には恵まれているが、それらを生かした商品となっていない。素晴らしい講師陣、素晴らしい参加者からヒントを得たい。(嬉野市男性、地方公務員)
- ・現在、気仙沼地域戦略でインターンシップをしている。これまで山田桂一郎先生をはじめとする先生方から学んできたことが実際の現場でどのように実行され、どのような課題があるかを学んでいる。そのため、実際の現場を見た経験や、現在進行形で実務を行っている視点から、再度観光塾を受講し新たな発見や学びを得ることを目的にしている。(気仙沼市男性、学生、気仙沼地域戦略)
- ・現在実行している着地型体験ツアーの問題点の洗い出しを行い、ブラッシュアップしたい。(上富田町女性、町議会議員)
- ・観光地として地域を活性化する事で、町の財政を助けたい。(上富田町女性、会社員)
- ・E バイクでの地域との関わり方、広域連携の方法など、持続的に発展するために必要なことを学びたい。(上富田町女性、社会人学生)
- ・観光事業の今の考え方を学ぶ。(和歌山市女性、公務員)
- ・市の観光客、リピーター増やす。観光地として選ばれる具体的理由を学びたい。(和歌山市女性、非常勤職員)
- ・マーケティングがうまく利用できていないので、その活用方法。研修として地域づくり地域プロモーションに関心がある。(白浜町女性、会社代表)

表 9 南紀熊野観光塾 第1期～第8期の概要（講演内容のみ抜粋）

| | 開催日 | 開催日時 | 講演タイトル | 講師名（敬称略） | 開催場所（所在地） |
|-----|---------|---|--|---|--------------------------|
| 第1期 | 特別回記念講演 | 2013(平成25)年9月6日(金)18:30～20:30 | 記念講演「選ばれ続ける地域とは」～なぜ、地域振興に観光が必要なのか?～ | 山田 桂一郎 ^{*1} 実施当時の講師所属は表下に記載 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第1回 | 2013(平成25)年9月7日(土)10:00～12:00 | 講演「選ばれ続ける地域とは Part 2」～地域の価値づけを考える～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第2回 | 2013(平成25)年9月7日(土)12:00～17:00/ 9月8日(日)8:00～16:30 | 『地域資源を知る』～地域のお宝発掘の旅～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第3回 | 2013(平成25)年9月7日(土)17:30～20:00 | 講演「地域資源を磨く」～地域資源の商品化と売れる仕組みの構築～ | 山田 桂一郎 | 南紀勝浦ホテル 浦島(那智勝浦町) |
| | 集中講義 | 2013(平成25)年9月24日(火)～27日(金) | 『観光ガイド論』(大)学集中講義を部分的にユーストリム配信) | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第4回 | 2013(平成25)年10月22日(火)13:30～16:30 | 講演「先進地に学ぶ地域経営のあり方」～地域をまるごと売る仕組み～ | 山田 桂一郎、江崎貴人 ^{*2} | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第5回 | 2013(平成25)年11月19日(火)13:30～16:30 | 講演「地域のブランディング」～“こだわ”ど“手間暇”が新たな市場をつくる～ | 山田 桂一郎、生野敬嗣 ^{*3} | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第6回 | 2013(平成25)年12月3日(火)13:30～16:30 | 講演「観光ガイド論のツボ」『外国人から見えた南紀熊野』～その魅力と求められる誘客の仕組み～ | 出口 竜也、ブラッドトウル ^{*4} | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第7回 | 2013(平成25)年12月17日(火)13:30～16:30 | 講演「地域振興におけるガイドの役割」～地域の価値とそれを伝える人材の重要性を理解する～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第8回 | 2014(平成26)年1月20日(月)13:30～16:30 | 講演「総括＆「こうあたい50年度の南紀熊野」～そのために今あるべきことは何か?～ | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| 第2期 | 第9回 | 2014(平成26)年1月21日(火)10:00～16:00 | 講演「次なる一歩に向けて」～あなたにできることは何ですか～ | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | 特別回記念講演 | 2014(平成26)年1月21日(火)18:30～20:30 | 記念講演「これまでの観光これからの観光」～南紀熊野がめざすこと～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 特別回記念講演 | 2014(平成26)年10月17日(金)18:30～20:30 | 記念講演「選ばれ続ける地域とは」～南紀熊野に必要なこと～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第1回 | 2014(平成26)年11月25日(火)10:30～12:30 | 講演「観光学部セミナー」 | 山田 桂一郎、藻谷浩介 ^{*5} | ①和歌山大学 ②田辺商工会議所3階(WEB配信) |
| | 第2回 | 2014(平成26)年11月26日(水)10:00～16:30 | 講演「選ばれ続ける地域に必要なこと」「集客せ」～海外や県外からの誘客の仕組みとインフラ整備のリスク～ | 山田 桂一郎、山田 拓 ^{*6} | 秋津野ガルテン(田辺市) |
| | 第3回 | 2014(平成26)年12月2日(火)11:00～12:00 | 講演「観光戦略論」 | 竹林 浩志 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第4回 | 2014(平成26)年12月2日(火)13:30～16:30 | 講演「地域経営・付加価値とは」 | 山田 桂一郎、生野 敬嗣 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第5回 | 2014(平成26)年12月9日(火)11:00～12:00 | 講演「観光行動論」 | 出口 竜也 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第6回 | 2014(平成26)年12月9日(火)13:00～16:30 | 講義「地域資源の商品化について」 | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第7回 | 2015(平成27)年1月13日(火)11:00～12:00 | 講義「ジオツーリズム・エコツーリズム」 | 此松 昌彦 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| 第3期 | 第8回 | 2015(平成27)年1月13日(火)13:00～16:30 | 講義「観光地と資源・環境について」 | 山田 桂一郎、福島 大輔 ^{*7} | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | 特別例会 | 2015(平成27)年1月30日(金)～2月1日(土) | 「UNWTOの特続可能な観光世界基準フォーラム」～世界的観光地に向けた取り組み～ ビューローと連携 | 一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローと連携 | 世界遺産熊野本宮館 |
| | 第6回 | 2015(平成27)年2月10日(火)11:00～12:00 | 講義「海外から見えた熊野」 | 山田 桂一郎、ブラッドトウル | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第7回 | 2015(平成27)年2月10日(火)13:00～16:30 | 講義「世界基準の観光とは」 | 山田 桂一郎、生野 敬嗣 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 特別回記念講演 | 2015(平成27)年2月10日(火)18:30～20:30 | 記念講演「どんな地域をめざすのか」～未来の熊野のために～ | 山田 桂一郎 | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第1回 | 2015(平成27)年3月2日(水)13:20～14:50 | 基調講演「地域の30年後の姿を、今にさすべし」 | 山田 桂一郎 | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第2回 | 2015(平成27)年3月2日(水)15:00～16:20 | 講義「マクロ活かしマクロを超える大間のケリラのまちおこし」 | 島 康子 ^{*8} (WEB配信) | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第3回 | 2015(平成27)年3月2日(水)16:30～17:50 | 講義「これからの国際観光を考える」 | 柏木 隆久 ^{*9} | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第4回 | 2015(平成27)年3月3日(木)13:00～14:20 | 講義「地域資源の発掘・再評価と商品開発」 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | 第5回 | 2015(平成27)年3月3日(木)14:20～15:50 | 講義「商品開発で地域振興」 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| 第4期 | 第6回 | 2015(平成27)年3月3日(木)16:00～18:00 | 講義「商品開発で地域振興」 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | 第7回 | 2015(平成27)年3月4日(金)9:00～12:00 | 講義「30年後の姿をめざして」 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | 第8回 | 2016(平成28)年11月10日(水)13:10～14:40 | 基調講演「地域経営に観光が果たす役割とは?」 | 山田 桂一郎 | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第9回 | 2016(平成28)年11月10日(水)14:50～15:50 | 講義「なぜ DMO が注目を集めているのか?」 | 山田 桂一郎 | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第10回 | 2016(平成28)年11月10日(水)16:00～17:00 | 講義「マーケティングとブランディング」 | 山田 桂一郎、出口 竜也、竹林 浩志、此松 昌彦 | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第11回 | 2016(平成28)年11月11日(金)9:30～10:40 | 講義「エゴと利害関係を越えた連携は可能か?」 | 山田 桂一郎 | リヴァージュ・スバひきがわ(白浜町) |
| | 第12回 | 2016(平成28)年11月11日(金)10:40～11:50 | 講義「熊野の魅力を伝える」 | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第13回 | 2016(平成28)年11月11日(金)12:00～13:10 | 講義「熊野の魅力を伝える」 | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第14回 | 2016(平成28)年11月11日(金)13:10～14:20 | 講義「熊野の魅力を伝える」 | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | 第15回 | 2016(平成28)年11月11日(金)14:20～15:30 | 講義「熊野の魅力を伝える」 | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |

| | | | | | |
|-----|------|----------------------------------|--|---|--------------------|
| 第4期 | 基礎講習 | 2016(平成28)年11月11日(金) 10:50～12:00 | 講義『DMOで目指す30年後の地域経営の姿』 | 山田 桂一郎 | リヴァージュ・スパひきがわ(白浜町) |
| | | 2016(平成28)年11月11日(金) 14:20～15:30 | 講義『地域経営が目指すべき姿とは?』 | 山田 桂一郎 | リヴァージュ・スパひきがわ(白浜町) |
| | | 2016(平成28)年11月24日(木) 13:00～17:30 | 講義『地域ならではの商品づくりとは?』(任意参加) | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2016(平成28)年11月25日(金) 9:30～16:00 | 講義『選ばれ続ける商品づくりとは?』(任意参加) | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2016(平成28)年11月24日(木) 13:00～17:30 | 講義『地域経営を支える商品づくりとは?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2016(平成28)年11月25日(金) 9:30～10:40 | 講義『いい商品とは何か?』 | 山田 桂一郎、出口 竜也、竹林 浩志、此松 昌彦 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2016(平成28)年11月25日(金) 10:50～12:00 | 講義『いい商品を作り続けるためには何が必要か?』 | 山田 桂一郎、出口 竜也、竹林 浩志、此松 昌彦 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2016(平成28)年11月25日(金) 14:20～15:20 | 講義『選ばれ続ける商品づくりとは?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2017(平成29)年2月13日(月) 13:00～14:00 | 講義『地域ならではの素材の見つけ方、みがき方』 | 山田 桂一郎、杉本夏子 ^{*10} | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2017(平成29)年2月13日(月) 15:20～16:20 | 講義『地域経営における戦略と戦術とは?』 | 山田 桂一郎、山田和昭 ^{*11} | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| 第5期 | 基礎講習 | 2017(平成29)年2月13日(月) 16:30～17:30 | 講義『地域マーケティングとは?』 | 山田 桂一郎、多田 稔子 ^{*12} 、森成人 ^{*13} | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2017(平成29)年2月14日(火) 14:20～15:20 | 講義『持続可能な地域経営とは?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2017(平成29)年11月30日(木) 13:10～14:10 | 講演『選ばれ続ける地域とは?』～なぜ、地域振興に観光が必要なのか?～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2017(平成29)年11月30日(木) 14:15～15:25 | 講演『稼ぐためのフアーと仕組みづくり』～香川の片隅からの挑戦～ | 横山 昌太郎 ^{*14} | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2017(平成29)年11月30日(木) 15:35～16:45 | 講演『あるもの活かしで地域力発信』～いま求められるのは「地域を編む力」～ | 西谷 雷佐 ^{*15} | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2017(平成29)年11月30日(木) 17:15～18:00 | 講演『近年の日本の観光動向について』 | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2017(平成29)年12月1日(金) 10:00～11:00 | 講演『阪B緑志向で地域振興』～補助金漬け、劣化版コピ事業からの決別が地域を強くする～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2017(平成29)年12月1日(金) 11:10～12:00 | 講演、セッション『地域振興を拒むカベをどう壊すか』『STPにより売れる企画を』 | 山田 桂一郎、横山昌太郎、西谷雷佐 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2017(平成29)年12月1日(金) 13:00～14:00 | 講演『南紀熊野の価値をどう高めるか』～ジオの視点から見えてくるもの～ | 此松 昌彦、出口 竜也 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2017(平成29)年12月1日(金) 15:20～16:15 | 講演『感幸地を観光地に』～持続可能な地域経営のために～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| 第6期 | 基礎講習 | 2018(平成30)年2月20日(火) 13:00～14:10 | 講演『地域ならではの商品をつくる理由とは?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2018(平成30)年2月20日(火) 14:20～15:20 | 講演『地域ならではの商品をつくるには?』 | 横山 昌太郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2018(平成30)年2月20日(火) 15:30～16:40 | 講演『選ばれ続ける商品をつくるには?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2018(平成30)年2月21日(水) 9:30～10:20 | 講演『地域経営における戦略と戦術』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2018(平成30)年2月21日(水) 10:30～11:20 | 講演『地域課題を地域ブランドに古座川町における鹿肉の商品開発』 | 細井 孝哲 ^{*16} | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2018(平成30)年2月21日(水) 11:30～12:00 | 講演『地域課題をブランドに』～企画の STP のあり方を考える～ | 山田 桂一郎、細井 孝哲、横山昌太郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2018(平成30)年2月21日(水) 14:50～15:20 | 講演『地域経営における戦略と組織とは?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2018(平成30)年11月29日(木) 13:10～14:10 | 講演『選ばれ続ける地域とは?』～なぜ、地域振興に観光が必要なのか?～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2018(平成30)年11月29日(木) 14:15～15:25 | 講演『広域連携の重要性とそれを支える仕組みとは?』～インアウトバウンド・着地型観光・相互送客の実践～(東北の事例) | 西谷 雷佐 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2018(平成30)年11月29日(木) 15:35～16:45 | 講演『マーケットを捉える仕組みから見える今後の展望』～気仙沼版DMOによる自主財源と自主自立への道～(気仙沼の事例) | 森 成人 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| 第6期 | 基礎講習 | 2018(平成30)年11月29日(木) 17:15～18:00 | 講演『脱B緑志向で地域振興』～補助金漬け、薄利多売、劣化版コピ事業からの決別が地域を強くする～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2018(平成30)年11月30日(金) 10:00～11:00 | 講演『マーケティングと地域内経済循環』 | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2018(平成30)年11月30日(金) 11:10～12:00 | 講演『現状認識とマーケティングの重要性を知る』 | 山田 桂一郎、西谷雷佐、森成人 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2018(平成30)年11月30日(金) 13:00～13:20 | 講義『地域経済循環分析で見る地域の姿』 | 出口 竜也、此松 昌彦 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2018(平成30)年11月30日(金) 15:15～16:15 | 講演『次なる一歩に向けて』～あなたにできることは何ですか?～ | 山田 桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2019(平成31)年1月10日(木) 13:00～14:30 | 講演『選ばれ続ける古座川町になるために』 | 山田 桂一郎、細井 孝哲 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2019(平成31)年1月10日(木) 14:40～15:40 | 講演『着地型観光で選ばれる商品とは?』(東北の事例) | 西谷 雷佐 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2019(平成31)年1月10日(木) 15:40～16:10 | 講演『着地型観光で選ばれる商品とは?』(田辺市の事例) | 多田 稔子 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2019(平成31)年1月10日(木) 16:20～18:20 | 講演『地域を支える商品づくりとは?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2019(平成31)年1月11日(金) 9:00～9:40 | 講演『ターゲットは明確か?』 | 山田 桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |

| | | | | | |
|-----|-------------------------------------|--------------------------------|---|-----------------------------|--------------------|
| 第6期 | 塾生講習 | 2019(平成31)年1月11日(金)10:00～10:30 | 講演『気仙沼クルーカード導入の目的と課題』 | 森 成人 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2019(平成31)年1月11日(金)10:40～12:10 | 講演『地域づくりにおけるマーケティングの本質とは?』 | 山田桂一郎、多田 稔子、西谷 雷佐、森 成人 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2019(平成31)年1月11日(金)14:50～15:20 | 講演『持続可能な地域を実現するために』 | 山田桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2019(令和元)年11月28日(木)13:10～14:10 | 講演『選ばれ続ける地域とは?』～なぜ、地域振興に観光が必要なのか?～ | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2019(令和元)年11月28日(木)14:15～14:55 | 講演『観光地域づくりと広域連携で得るものとは?』～インバウンド・着地型観光・日本版DMOの現状と課題～(観光庁の政策) | 楢垣 敏* ¹⁷ | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| 第7期 | 基礎講習 | 2019(令和元)年11月28日(木)15:00～15:40 | 講演『空港を起点とした南紀熊野の地域活性化とは?』～民営化空港会社による空港型地方創生の挑戦～ | 森重 良太* ¹⁸ | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2019(令和元)年11月28日(木)15:45～16:45 | 講演『マーケティングを捉える仕組みから見える今後の展望』～顧客データベースを地域でシェアする仕組みと自主財源、自主自立への道～(気仙沼の事例) | 森 成人 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2019(令和元)年11月28日(木)17:15～18:00 | 講演『脱B級志向で地域振興』～補助金漬け、薄利多売、劣化版コピー事業からの決別が地域を強くする～ | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2019(令和元)年11月29日(金)10:00～11:00 | 講演『マーケティングと地域内経済循環』 | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2019(令和元)年11月29日(金)11:10～12:00 | 講演『現状認識とマーケティングの重要性を知る』 | 山田桂一郎、楢垣 敏、森 成人、森重 良太 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| 第8期 | 塾生講習 (県内での新型コロナウイルス感染症拡大のため開催延期) | 2019(令和元)年11月29日(金)13:00～13:20 | 講義『地域経済循環分析で見る地域の姿』 | 山田桂一郎、楢垣 敏、出口 竜也 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2019(令和元)年11月29日(金)15:15～16:15 | 講演『あなたにできることは何ですか?』～次なる一歩に向けて～ | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年2月27日(木)13:00～14:10 | 講演『選ばれ続ける続ける地域になるために』 | 山田桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2020(令和2)年2月27日(木)16:20～17:00 | 講演『着地型観光で選ばれる商品とは?』(南紀白浜エアポートの事例) | 森重 良太 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2020(令和2)年2月27日(木)17:00～17:40 | 講演『着地型観光で選ばれる商品とは?』(気仙沼の事例) | 森 成人 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| 第8期 | 基礎講習 | 2020(令和2)年2月27日(木)17:50～18:30 | 講演『クールな田舎の価値と課題とは?』(飛騨古川の事例) | 山田 拓 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2020(令和2)年2月27日(木)18:40～19:10 | 講演『地域を支える商品づくりとは何か?』 | 山田桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2020(令和2)年2月28日(金)9:00～9:40 | 講演『ターゲットは明確か?事業書き上げのポイント』 | 山田桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2020(令和2)年2月28日(金)9:50～10:30 | 講演『事業化に必要な要素と課題とは?』 | 西谷 雷佐 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2020(令和2)年2月28日(金)10:40～12:00 | 講演『地域づくりにおけるマーケティングの本質とは?』 | 山田桂一郎、山田 拓、西谷 雷佐、森 成人、森重 良太 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| 第8期 | 基礎講習 | 2020(令和2)年2月28日(金)15:50～16:30 | 講演『持続可能な地域を実現するために』 | 山田桂一郎 | 南紀月の瀬温泉ぼたん荘(古座川町) |
| | | 2020(令和2)年11月25日(水)9:10～10:10 | 特別講演『世界から見た南紀熊野のこれからの観光と地域振興を考える』 | 藻谷 浩介 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月25日(水)10:10～11:10 | 講演『選ばれ続ける地域とは?』～地域振興になぜ観光が必要なのか?～ | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月25日(水)11:20～12:00 | 講演『インバウンド・着地型観光・観光地域づくり法人(DMO)の現状と課題』 | 楢垣 敏 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月25日(水)13:00～13:40 | 講演『空港を起点とした南紀熊野の地域活性化とは?』 | 森重 良太 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| 第8期 | 塾生講習 | 2020(令和2)年11月25日(水)13:45～14:25 | 講演『顧客データベースを活用した自主自立への道』 | 森 成人 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月25日(水)14:40～15:25 | 講演『なぜ、地域振興にマーケティングが重要なのか?』 | 山田桂一郎、竹林 浩志、楢垣 敏、森 成人、森重 良太 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月25日(水)16:20～16:50 | 講演『次なる一歩に向けて今できることは何か?』 | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月26日(木)10:10～10:50 | 講演『地域ならではの商品が選ばれる理由』 | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月26日(木)14:10～15:10 | 講演『デジタルマーケティングの目的と課題』 | 永山 卓也* ¹⁹ | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| 第8期 | 塾生講習 | 2020(令和2)年11月26日(木)15:20～16:20 | 講演『稼げる事業をどのように設計するか?』 | 森重 良太 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月26日(木)16:30～17:10 | 講演『地域を支える商品づくりとは何か?』 | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月27日(金)10:00～10:40 | 講演『ターゲットは明確か?事業書き上げのポイント』 | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月27日(金)10:40～11:25 | 講演『マーケティングを捉える仕組みから見える今後の展望』(気仙沼の事例) | 森 成人 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| | | 2020(令和2)年11月27日(金)11:30～12:15 | 講演『着地型観光で選ばれる戦略とは?』(南紀熊野の事例) | 多田 稔子 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |
| 第8期 | 塾生講習 | 2020(令和2)年11月27日(金)16:00～16:40 | 講演『持続可能な地域を実現するために』 | 山田桂一郎 | 和歌山県立情報交流センター Bigu |

実施当時の講師所属（登壇期順に記載）

- * 1：山田 桂一郎：JTIC SWISS 代表、観光庁観光カリスマ、環境省環境カウンセラー、総務省地域力創造アドバイザー、内閣府官房地域活性化伝道師、内閣府官房クールジャパン地域プロデューサー、NPO 法人日本エコツーリズム協会理事、まちづくり観光研究所主席研究員、日本エコウォーク環境貢献推進機構委員、和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授、北海道大学観光学高等教育センター客員教授、奈良県立大学客員教授ほか
 - * 2：江崎 貴久：有限会社菊乃代表取締役 旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役 海島遊民くらぶ、環境省中央審議会専門委員、国土交通省中部運輸局観光アドバイザー、三重県観光審議会、NPO 法人日本エコツーリズム協会理事ほか
 - * 3：生野 敬嗣：一般社団法人由布院温泉観光協会事務局長（現職：一般社団法人由布市まちづくり観光局事務局次長）
 - * 4：ブラッドツル：一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロープロモーション事業部長
 - * 5：藻谷 浩介：株式会社日本総合研究所主席研究員、株式会社日本政策投資銀行地域企画部 特任顧問、NPO 法人 ComPus 地域経営支援ネットワーク理事長
 - * 6：山田 拓：株式会社美ら地球代表取締役 CEO、総務省 地域力創造アドバイザー、内閣府官房クールジャパン・地域プロデューサー、一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 国際グリーンツーリズムアドバイザー、NPO 法人日本エコツーリズム協会正会員ほか
 - * 7：福島 大輔：NPO 法人桜島ミュージアム理事長
 - * 8：島 康子：Yプロジェクト株式会社代表取締役
 - * 9：柏木 隆久：新関西国際空港株式会社総務人事部長（現職：一般財団法人運輸総合研究所主席研究員・理事長補佐）
 - * 10：杉山 夏子：温泉旅館 矢野 若女将（現職：温泉旅館 矢野 女将）
 - * 11：山田 和昭：元若桜鉄道株式会社代表取締役（現職：近江鉄道株式会社構造改革推進部部長、NPO 法人交通まちづくり戦略会議アドバイザー・理事長付、日本鉄道マーケティング代表）
 - * 12：多田 稔子：一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー会長
 - * 13：森 成人：株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター研究員、気仙沼市復興アドバイザー、一般社団法人気仙沼地域戦略理事
 - * 14：横山 昌太郎：無双地図株式会社 取締役新記号事業部長（現職：森のガイド、さぬきジオガイド）
 - * 15：西谷 雷佐：たびすけ合同会社西谷代表、一般社団法人東北インバウンド連合理事長、株式会社インアウトバウンド仙台・松島代表取締役
 - * 16：細井 孝哲：古座川町役場地域振興課 Project General Manager 鳥獣被害対策、ジビエ担当
 - * 17：檜垣 敏：国土交通省観光庁観光地域振興部観光地域振興課広域連携室長 兼 観光地域づくり法人支援室長（現職：株式会社 LOCAL ROOTS 代表取締役）
 - * 18：森重 良太：株式会社南紀白浜エアポート誘客・地域活性化室長
 - * 19：永山 卓也：株式会社リショウ、Google マイビジネスプラチナプロダクトエキスパート、Google マップ Google 広告プロダクトエキスパート
- 第1期～第8期 和歌山大学の主担当講師
- ・出口 竜也：和歌山大学 観光学部 教授
 - ・竹林 浩志：和歌山大学 観光学部 准教授
 - ・此松 昌彦：和歌山大学 教育学部 教授

V. 今後の開催に向けて

上記のように、対面実施でも参加者が密にならないように配慮をした運営が出来ることがわかるとともに、オンラインによる同時開催でも運営できるノウハウを獲得することができた。

オンライン受講者には、県外在住の修了生が学び直しを目的に参加した例や、修了生から強く勧められた受講生も見られた。

また、第8期では講師をつとめられた方に修了生が含まれるなど、観光塾で得た学びを後進に伝える知識の循環が始まっていることに運営側としてこの上ないやりがいを感じるエピソードがあった。塾生が地域で中核人材となり活動している事例を聞くことも多くなっている。観光を取り巻く環境の変化は目ざましく、何度もリピートしてくれている受講生の感想には、取り組みの段階に応じて新たな悩み事が出てくるが、塾に参加するたびに初心を思い出すとの記載もあった。

塾生講習受講生の中にはさらなる高次の学びを求める声もあった。この点については本学に観光系専門職大学院が設置されれば、その要望に応えることが可能となるであろう。また、塾生が主体的に活動する地域において観光塾の講師を招へいし、さらなる学びの機会を作る動きも見られるようになっていく。活動する地域の実情に合わせた新たな学びの場を塾生が探し、あるいは自ら立ち上げ、相互に学習を進める動きも見られ始めている。さらには、三重県御浜町、兵庫県養父市、一般社団法人イーストとくしま観光推進機構のように、各地の

自治体や DMO の職員が研修の一環で観光塾を受講したり、研修費用を地域住民に補助し、それを活用して町内に所在する NPO 団体の職員が受講するなど、多様な地域から多様な背景を持つ受講生が集まりつつあるのも、今後の開催に向けて注目すべき新たな動向である。

VI. 提起、今後の課題克服に向けて

コロナ禍において花盛りとなったオンライン教育は、過疎地域における教育機会格差の是正に役立つとともに、新たな学習機会を提供する有力なツールにもなりえることが徐々に共通の認識になろうとしている。リカレント教育においても、勤務の合間に録画を見逃し配信で聴講できるなど、新たな機会を獲得することによる学習効果は極めて大きいと言ってよいであろう。わからないところは理解できるまで何度も見直すことができ、配席の都合でスライドが見えづらい、細かくて理解しにくいということも少ない。

コロナ禍に実施した第8期の南紀熊野観光塾は、カリキュラムの簡素化を余儀なくされたものの、塾生の求めに応じた学習機会の提供はできたのではと考えている。もっとも、参加者の選抜にあたって、応用編としての塾生講習にいかに関心を持って受講した塾生をいざなうか、塾生講習でいかに実際の活動において直面している問題・課題の解決に資する知識や能力をつけるためのヒントを獲得するか等については観光塾における今後の課題である。いずれにしても、地域を観光を手段

として振興するためには自らの頭で考えて地域の価値を高める策を講じる人材の育成が必要であることは間違いない。

Ⅶ. まとめ、おわりに

本論文では南紀熊野観光塾を事例に、和歌山大学におけるリカレント教育について検討を試みてきた。観光をキーワードに地域に貢献する大学となることをミッションの一つとする和歌山大学にとって、この観光塾は今後ますます重要な位置付けを占めるものとなるであろう。

リカレント教育をさらに深めるにあたって、時代の変化を的確にとらえた内容を学習できることは受講生にとって何よりの魅力である。人口減少が確実かつ急速に進むことが確定している現状において、リピート受講や口コミで受講者に選ばれる講座を実現するためには、講座の内容を時代の変化に適応させて変化させるとともに、その質も継続的に向上させることで、受講生の高い満足度を継続的に獲得する努力が必要である。

特に、目まぐるしく環境が変化する観光の現状を理解するためには、よき実践者の経験知が必須である。さらなる学びの深化をはかるためには、習熟度の高い学習者に向けたより高度なプログラム（大学院等）への誘導が必要であろう。

他方、リカレント教育においては自ら企画運営する側に立つことで学ぶことも多い。その意味で、観光塾の塾生が各自の活動地域において第二・第三の観光塾とも呼べるようなセミナー等を開催し、主体的に何かに取り組もうとしていることは望ましい兆候であると考ええる。また、大学にとってこの種の観光塾を開催することの最大の教育効果は、実社会でさまざまな問題課題に直面しながら活動している社会人と学生を交流させる機会を持つことができるという点である。実際、第7期に参加し、そこでの交流に触発されて第8期ではDMOの先進地として広く知られる宮城県気仙沼市での長期インターンシップを通じて、さまざまな経験を重ねた学生が現れたことは、大学での座学と実社会での実践を相互に反復することによる学びがもたらした賜物と言えるかもしれない。また、第7期で社会人がどのように思考し、直面する問題課題に悩み、その解決方法を求めて観光塾を受講しているのかに関心を持った他大学の学生が、南紀熊野観光塾をテーマに塾生を対象にした聞き取り調査を行い、卒業論文をまとめている。

今後は、塾生のネットワークがさらに広がることで、異業種、域内、広域を問わず新たな連携が生まれることを期待したい。実際、地方議員の塾生同士が自治体の垣根を越えたネットワークを構築することで、ある事業での協力関係ができたという実績も出ていることから、これに続く連携関係を個人と組織、あるいは地域と大学などさまざまな主体間で構築できれば幸いである。観光塾にとって当面の最大の課題は持続的な運営を保証する財源と人的資源の確保であるが、これについては、関係各所と継続的な役割分担の見直しを実施することで持続可能な観光塾の運営を可能とする座組みを模索していきたい。

謝辞

本講座の運営、配信にあたり、山田桂一郎塾長、講師の方々をはじめ和歌山大学観光学部および地域の皆様には多大なるご協力とご助言をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

以上

受理日 2021年5月13日